

p.35 Lesson 3 Part3

EXERCISES

《解答》

A (1) used to (2) used to be (3) don't need to

《解説》

- (1) 1. 後半は現在時制で any more があり、かつ前半に動作動詞 take があることから、前半は過去の規則的な行為・習慣を述べる文と考える。よって空所には used to が入る。なお、程度をいう場合は AmE では anymore と 1 語でつづることも多いが、量をいう場合は常に 2 語でつづる。
- (2) 2. 現在の状況を述べる 1 文目に対し、2 文目では以前の状況を述べている。過去の状態を表すので used to be が入る。
- (3) 2 ② write down は「～を書き留める」。1 文目で相手の電話番号を知っていると述べているので、2 文目では don't need to (～する必要はない) が入る。

《和訳》

- (1) ステラは以前はよく朝散歩をしたものだが、いまはもうしていない。
(2) この建物は今は書店だ。でも以前は映画館だった。
(3) 君の電話番号は知っているよ。書いてくれる必要はないさ。

B (1) should have come (2) must have dropped (3) may have heard (4) cannot have won (5) ought not to have eaten

《解説》

- (1) 6. 1 文目の内容（彼女はパーティーに来なかった）から、選択肢 should come を使って過去の行為に対する非難・後悔を表現する。
- (2) 3. 1 文目の内容（手袋を片方なくしてしまった）から、選択肢 must drop を使って過去のことに対する現在の推量を表現する。
- (3) 4. 1 文目の内容（ジーンがその計画についてどのようにして知ったか）から、選択肢 may hear を使って過去の

去のことに対する現在の推量

(4) 5. 1文目の内容（トニーは泳ぐのが上手ではない）から、選択肢 cannot win を使って過去のことに対する

確信のある推量

を表現する。なお、(be) a good swimmer は名詞構文と呼ばれる英語特有の表現で、1文目は Tony cannot swim well. と同様の意味を表す。他の例では、an early riser, an excellent cook, a good guitarist, a fast runner など（→参考書 p.383 名詞構文）。

(5) 6. 1文目の内容（気分が悪い）から、選択肢 ought not to eat を用いて過去の行為に対する後悔

を表現する。なお、1文目では状態動詞 feel を現在進行形にして、一時的にその状態であることを表現している。《和訳》

- (1) 彼女は昨夜そのパーティーに来なかった。彼女は来るべきだったのに。
- (2) 私は手袋を片方なくしてしまった。どこかで落としたにちがいない。
- (3) ジェーンはその計画についてどのようにして知ったのか。—だれかから聞いたのかもしれない。
- (4) トニーは泳ぐのが上手ではない。彼が昨日の競技で勝ったはずがない。
- (5) 気分が悪い。食べ過ぎるべきではなかった。

C (1) Would (2) Could (3) would (4) might (5) would

《解説》

現在における、ていねいな依頼・許可・勧誘・願望などは助動詞の過去形を使って表現する。

(1) 9. go out for + 名詞で「～のために出かける」。副詞 together から、勧誘する表現 Would you like to do ~? を用いる。

(2) 8. spare は「（人に時間などを）割く」。 「私のために時間を割く」から、ていねいに依頼する表現 Could you ~? とする。

(3) 9. スピーチを締めくくるための定型表現。「この辺で終わりにしたい」という願望をていねいに表現するので、助動詞の過去形 would を用いる。

(4) 9. （枠外例文）選択肢は must と might である。この文脈では、must なら断定的推量、might なら控えめな推量となる。1文目の問いかけに対し、2文目では「はっきりわからない」と答えていることから、ここでは控えめな推量と判断する。

(5) 8. Excuse me, (but) ~? は見知らぬ人にものを尋ねるときの定型表現。見知らぬ人には **ていねいに尋ねる** も

のなので、助動詞の過去形 would を用いる。

《和訳》

C 適切な答えを選びなさい。

- (1) 一緒に昼食に出かけませんか。
- (2) 少しお時間をいただいてもよろしいですか。
- (3) スピーチを締めくりたいと思います。ありがとうございました。
- (4) ケンと一緒にいるあの少女はだれですか。—わからないよ。彼の妹かもしれないね。
- (5) すみませんが、駅への行き方を教えていただけますか。

D (1) Would [Could] you pass me the salt(, please)? /

Will [Can] you pass me the salt(, please)?

(2) What would you like to have [eat] for lunch?

(3) Peter used to go for a jog every morning.

(4) You should [ought to] have made a reservation at the restaurant.

(5) I may [might] have left my umbrella at school.

《解説》

(1) 8. **依頼する表現**なので、Can [Will] you ~? を用いるが、can / will を過去形にすることで **ていねいなニュアンス**が生まれる。「塩をとる」は「私に塩を手渡す」と読み替えて pass を使う。

(2) 9. **控え目に相手の願望を尋ねる表現**として、What would you like to do ~? を用いる。do の部分は「昼食に～を食べる」と考えて、have [eat] ~ for lunch.

(3) 1. 日本語から、**過去の規則的な行為・習慣（動作動詞で表現する内容）を表す**と判断し、used to を用いる。

(4) 6. 日本語から、**過去の行為に対する後悔を表す**と判断し、〈should [ought to] have + 過去分詞〉を用いる。レストランに行けなかったことが示唆されている。語注には make a reservation at (the restaurant) とあるが、reservation の後に for a table を入れる言い方もある。なお、「～を予約する」は reserve や book も考えられるが、その場合は reserve [book] a table at the restaurant などと表現する。

(5) 4. 日本語から、**過去のことに対する推量**と判断し、〈may have + 過去分詞〉を用いる。「～に...を忘れてくる」は leave ... at ~.

Let's Try!

《解答》

- Could you show me this T-shirt in another color?
- Could you show me this coat in size S?
- Could you show me a shirt for this jacket?
- I'd like to try on this coat.
- I'd like to return this sweater to you.

《和訳》

クラスメートと取り組みなさい。

あなたはいま衣料店で買い物中です。店員にあなたがしたいことを頼みなさい。

店 員：いらっしゃいませ。

あなた：あの、よろしいですか。

_____ していただけますか。
_____ したいのですが。

DUALSCOPE WORKBOOK 解答・解説

LESSON3-3 助動詞を使って表現する / used to / Would you ~? / I'd like to do

本冊 pp.26-27 参考書 pp.124-130

-
- A (1) Need I memorize this speech (2) I used to play catch
(3) Sally used to be a big fan (4) don't need to write an essay
-

- 解説 (1) 〈Need + S + do ~?〉で助動詞 **need** の疑問文「～する必要がありますか」を表す。
(2) 〈used to do〉で過去の規則的な行為・習慣「(以前は)よく～したものだ」を表す。play catch「キャッチボールをする」
(3) 〈used to do〉で過去の状態「(今はそうではないが)以前は～だった」を表す。
(4) 〈S + don't need to do〉で一般動詞の need を用いた表現〈**need to do**〉の否定文「～する必要がない」を表す。

- 和訳 (1) このスピーチを覚える必要がありますか。
(2) 私は以前、父とよくキャッチボールをしたものだ。
(3) サリーは以前、そのフィギュアスケート選手の大ファンだった。
(4) その本について作文 [レポート / 小論文] を書く必要はありません。
-

- B (1) この庭には以前、池があった。
(2) 明日は昼食 [弁当] を持ってくる必要はありません。

- (3) 私は以前、毎日テレビを見ていた。
(4) ミキは毎朝この薬を飲む必要があります。

-
- 解説** (1) be は**状態動詞**なので、use to be は「(今はそうではないが) 以前は～があった」〈過去の状態〉の意味を表す。
(2) **助動詞 need** の**否定文**は「～する必要がない」の意味を表す。
(3) watch は**動作動詞**なので、used to watch は「(以前は) よく見たものだ」〈過去の規則的な行為・習慣〉の意味を表す。
(4) 〈**need to do**〉は「～する必要がある」の意味を表す。この need は一般動詞として使われている。

-
- C (1) may have missed (2) cannot[can't] have lost (3) must have been
(4) should have answered (5) should not have stayed[sat] (6) need not have watered

-
- 解説** (1) 〈**may have + 過去分詞**〉で「～したかもしれない」という意味を表す。
(2) 〈**cannot[can't] have + 過去分詞**〉で「～したはずがない」という意味を表す。
(3) 〈**must have + 過去分詞**〉で「～だったにちがいない」という意味を表す。
(4) 〈**should have + 過去分詞**〉で「～すべきだったのに (～しなかった)」という意味を表す。「電話に出る」は answer the phone.
(5) 〈**should not have + 過去分詞**〉で「～しなければよかったのに (～した)」という意味を表す。
(6) 〈**need not have + 過去分詞**〉で「～する必要がなかったのに (～した)」という意味を表す。

-
- D (1) He must have studied hard (2) cannot have seen Jane
(3) I ought not to have come (4) I should have replied to you
(5) You need not have got up

-
- 解説** (1) 〈**must have + 過去分詞**〉で「～したにちがいない」という意味を表す。
(2) 〈**cannot have + 過去分詞**〉で「～したはずがない」という意味を表す。
(3) 〈**ought not to have + 過去分詞**〉で「～すべきではなかったのに (～した)」という意味を表す。
(4) 〈**should have + 過去分詞**〉で「～すべきだったのに (～しなかった)」という意味を表す。
(5) 〈**need not have + 過去分詞**〉で「～する必要がなかったのに (～した)」という意味を表す。

- 和訳** (1) ビリーがテストで満点を取った。熱心に勉強したにちがいない。
(2) きみが昨日、学校でジェーンを見たはずがない。彼女は休みだったよ。
(3) 繁華街に車で来るべきでなかった。交通量が多い。
(4) ごめん。もっと早くにきみに返信すべきだったよ。
(5) あなたは今朝そんなに早く起きる必要がなかったのに。

E (1) would you like (2) Would you like (3) Could[Can] I

解説 (1) 願望をたずねる表現〈**Would you like to do** ~?〉を用いる。
(2) 勧誘する表現〈**Would you like** ~?〉を用いる。
(3) 許可を求める表現〈**Could I** ~?〉または〈**Can I** ~?〉を用いる。〈**Could I** ~?〉は〈**Can I** ~?〉よりも
ていねいな表現。

和訳 店員：いらっしゃいませ。店内でお召し上がりですか、それともお持ち帰りですか。

ミキ：店内でお願いします。

店員：ご注文はいかがいたしましょうか。〔←何になさいますか。〕

ミキ：チーズバーガーを1つとフライドポテトをお願いします。

店員：お飲み物はいかがですか。

ミキ：いいえ、結構です。

店員：わかりました。他にご注文はございますか。

ミキ：あつ、ケチャップをもらえますか。

店員：はい、もちろんです。それでは、お会計は10ドルになります。

F (1) My mother used to teach physics at high school.
(2) I cannot[can't] find my key. I may have dropped it somewhere.
(3) Chris cannot have said such a rude thing.
(4) Could I have a glass[cup] of water? I'm very[so] thirsty.
(5) I'd[I would] like to talk to[with] you

解説 (1) 「(以前は)よく~したものだ」という過去の規則的な行為は〈**used to do**〉で表す。
(2) 「~したかもしれない」は〈**may have + 過去分詞**〉で表す。dropは他動詞(目的語をとる)なので、
itを忘れないように注意。
(3) 「~したはずがない」は〈**cannot[can't] have + 過去分詞**〉で表す。「そんな失礼なこと」such a rude
thingは語順に注意。
(4) 「~してもよろしいですか」と丁寧に許可を求める場合は〈**Could I** ~?〉を用いる。「お水を一杯」は「一
杯の水を」と考え、a glass[cup] of waterとする。
(5) 「~したいのですが」という丁寧な願望は〈**I'd[I would] like to do**〉で表す。「あなたと話す」は talk
to[with] you。

- A (1) don't have to (2) Shall (3) Won't (4) Shall (5) have to
-

解説 (1) mustn't は**禁止**「～してはいけない」、don't have to は**不必要**「～する必要はない」を表す。文脈から don't have to を選ぶ。

(2) Shall I ~? は**申し出**「(私が) ~しましょうか」、May I ~? は**許可**「～してもよろしいでしょうか」を表す。応答が Yes, please. なので、Shall のほうが**適当**。

(3) Won't you ~? で**勧誘**「～しませんか」を表す。

(4) Shall we ~? で**提案**「～しましょうか」を表す。

(5) have to も need も**必要**「～する必要がある」を表すが、need を一般動詞として用いる場合は、need to do の形でなければならない。したがって have to が正解。

和訳 (1) ここに電話番号を記入しないといけませんか。—いいえ、その必要はありません。

(2) 何か日本料理を作りましょうか。—はい、お願いします。

(3) 次の日曜日に私と映画を見に行きませんか。—ありがとう、よろこんで。

(4) 今夜は外食しましょうか。—はい、そうしましょう。

(5) アメリカへ行くときは、ビザを取る必要がありますか。

- B (1) had not better → had better not (2) would → used to (3) must → can't[cannot]
-

解説 (1) had better の否定形の語順は had better not do。

(2) would は過去の習慣を表すが、過去の状態は表さない。過去の状態を表す場合は、used to を用いる。

(3) 文脈から「そんな(きみがリサを新宿駅の近くで見た) はずがない」となるよう、must を can't[cannot]にする。

和訳 (1) 間食はしないほうがよい。

(2) ここには以前は工場があったが、今はスーパーマーケットがある。

(3) 昨日、新宿駅の近くでリサを見たように思うのですが。

—そんなはずはない。彼女は今ハワイにいるよ。

- C (1) would like (2) had (3) need not have
-

解説 (1) 「～したいのですが」は would like to *do* で表す。

(2) 「～するほうがよい」は had better で表す。

(3) 「～する必要はなかったのに」は〈need not have + 過去分詞〉で表す。

- D (1) You ought not to speak (2) I may have failed it

- (3) He can't have made such (4) would often tell us fairy tales
(5) used to go fishing with Tom

解説 (1) ought not to で**否定の義務**「～すべきでない」を表す。not は ought と to の間に置く。speak ill of で「～の悪口を言う」という意味。
(2) <may have + 過去分詞>で**過去のことに對する推量**「～したかもしれない」を表す。
(3) <can't have + 過去分詞>で**過去のことに對する否定的推量**「～したはずがない」を表す。
(4) would で**過去の習慣**「よく～したものだ」を表す。often は would と動詞の間に置く。
(5) used to で**過去の習慣**「(以前は)よく～したものだ」を表す。go fishing で「釣りに行く」という意味。

和訳 (1) 友だちの悪口を言うべきではない。
(2) 試験は難しかった。落ちたかもしれない。
(3) ダンはとても注意深い。彼がそんな間違いを犯したはずがない。
(4) 私たちが子どもの頃、祖母はよくおとぎ話をしてくれたものだ。
(5) 私の兄は日曜日にはいつもトムと一緒に釣りに行ったものだ。

- E (1) must be surprised at the news (2) I should have read the textbook.
(3) would not [wouldn't] listen to my advice (4) Would[Could] you show me your ID?
(5) Would you like something to drink? — No, thank you.

解説 (1) 「驚いているにちがいない」は must を用いて、must be surprised と表す。「～に驚く」は be surprised at ～。
(2) 「読んでおくべきだった」は <should have + 過去分詞>を用いて、should have read と表す。
(3) 「聞こうとしなかった」は would not [wouldn't]を用いて、would not [wouldn't] listen と表す。
(4) 「～していただけませんか」はていねいな依頼なので、Would you ～? または Could you ～? を用いて表す。
(5) 「～はいかがですか」という控えめな勧誘は Would you like ～? で表す。「何か飲むもの」は something to drink.

LISTENING

- A (1) a black belt (2) a professional player (3) green tea, sweets

解説 Karate Team Why don't you join our karate team? You can get a black belt in three years if you practice hard. You don't have to have any experience. Beginners are welcome.

Tennis Team How about taking tennis lessons from a professional player? He visits us once

a month. You should bring your own racket, but beginners may borrow one.

Tea Ceremony Club Would you like to learn *omotenashi*? Our tea ceremony club is perfect for you. You have to sit on *tatami*, but you'll soon get used to it. You can enjoy green tea and sweets every time!

- (1) 空手部の紹介の 2 文目を参照.
- (2) テニス部の紹介の 1 ~ 2 文目を参照.
- (3) 茶道部の紹介の 4 文目を参照.

和訳 部活動について情報を得なさい。それぞれの部活動で何ができますか。

空手部 私たちの空手部に入りませんか。一生懸命練習すれば、3年で黒帯が取れます。経験は必要ありません。初心者の方も大歓迎です。

テニス部 プロ選手から指導を受けるのはいかがですか。彼は月に一度クラブにやってきます。自分のラケットを持ってくるほうがよいですが、初心者の方は借りることができます。

茶道部 『おもてなし』を学びたいですか。私たち茶道部はそんなあなたにぴったりです。畳に座らないといけません。すぐに慣れます。毎回、お抹茶とお菓子が楽しめます！

- (1) 一生懸命練習すれば、黒帯が取れる。
- (2) プロ選手から指導を受けることができる。
- (3) お抹茶とお菓子を楽しむことができる。

-
- B (1) brass band (2) drama club (3) Would you (4) must not (5) must not
(6) don't have to (7) We'd better
-

和訳 対話を聞いて空所を埋めなさい。

- ダイキ : まず、ぼくと一緒に予定表を確認してくれるかい？
- エイミー : わかったわ。11時に出演するのはどれ？ブラスバンドそれとも演劇部？
- ダイキ : ブラスバンドだね。たしかその前に演劇部がくるはずだ。
- エイミー : そうね。次は何をする？
- ダイキ : ルール（を作るの）を手伝ってくれる？たとえば、「ホールには飲食物を持ち込んではいけません。」
- エイミー : なるほど。生徒や来校者が食堂でしか食べられないなら、ランチタイムは混むわね。
- ダイキ : そうなると、「生徒は12時から1時まで食堂を利用できて、来校者は1時以降に利用できます。」
- エイミー : いいわね！
- ダイキ : もう1つの重要なルールは、「展示物に触ってはいけない」ということだね。
- エイミー : それを言う必要はないわ。みんなわかっていると思うの。
- ダイキ : でも、中には作品に触ることができる博物館もあるよ。
- エイミー : わかったわ。書いたほうがよさそうね。

